

# 無痛分娩について

## I. 無痛分娩とは

無痛分娩とは麻酔を使って陣痛の痛みを緩和し分娩する方法です。体表的な麻酔は硬膜外麻酔です。

## II. 無痛分娩の利点と分娩への影響

### 1. 利点

- ・ リラックスして分娩に臨むことができる
- ・ 分娩時のストレスを軽減することで体力が温存でき産後の回復も早くなる
- ・ 緊急帝王切開となった時、速やかに手術に移行できる

### 2. 分娩への影響

- ・ 分娩第2期が遷延する
- ・ 吸引・鉗子分娩となる率がやや高くなる
- ・ 児への影響は認めない
- ・ 帝王切開率への影響はない

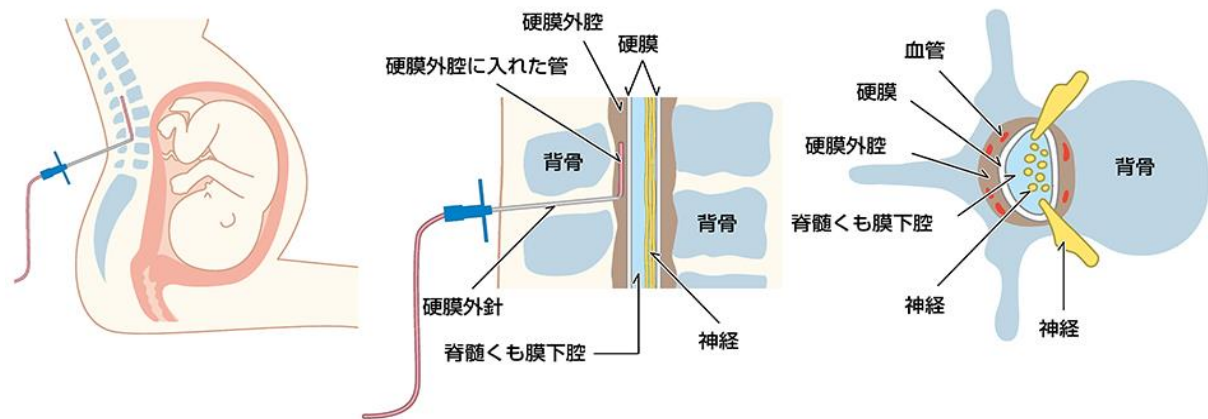
## III. 当院の無痛分娩

当院の無痛分娩は、麻酔科医師のサポートのもと産婦人科チームで対応いたします。また安全に分娩していただくために、妊婦健診で子宮口の準備ができていることを確認したうえで、陣痛促進剤を使用する計画分娩となります。

計画分娩の予定より早く陣痛が起こったり破水した場合は無痛分娩を行うことができません。

### 1. 硬膜外麻酔

脊椎の中の硬膜外腔というスペースに硬膜外カテーテルという細い管を挿入し、そこから麻酔薬を注入する方法です。麻酔の効果を确认后、PCAポンプという装置を用いて、麻酔薬を調整しながらお産を進めます。



比較的多い副作用・合併症	まれな副作用・合併症
血圧低下 発熱 尿が出にくくなる 脱力感 下肢のしびれ 皮膚のかゆみ 胎児一過性徐脈	頭痛 アナフィラキシーショック カテーテル挿入による硬膜外血種・感染・神経損傷 局所麻酔薬の血管内誤注入による痙攣 局所麻酔薬のくも膜下誤注入による広範囲な麻酔の侵襲

## 2. スケジュール(一般例)

1日目(木曜日)		2日目(金曜日)3日目(土曜日)	
10:00	入院 血液検査 ノンストレステスト	6:30	血液検査
13:00	手術室にて硬膜外カテーテル留置 硬膜外麻酔開始	8:30頃	分娩室にて子宮頸管拡張器抜去 陣痛誘発開始
15:00	分娩室にて子宮頸管拡張器挿入 硬膜外麻酔一時中止		痛みに応じて硬膜外麻酔開始 分娩終了後硬膜外麻酔終了 (硬膜外カテーテル抜去)

※2日目に分娩に至らない場合は硬膜外カテーテルを抜去せず、3日目に陣痛誘発を再開します。

## 3. 注意点

- ・ 硬膜外カテーテルの挿入は麻酔科医師が実施するため、上記時間のみの実施です。何らかの理由でカテーテルを抜いてしまったときは再挿入できません。
- ・ 陣痛誘発剤の使用は最長2日間とし、分娩に至らなければ計画無痛分娩を終了します。
- ・ 硬膜外麻酔を安全に実施するため、夜間の対応ができません。
- ・ 硬膜外カテーテルの挿入は手術室で行います。ご家族の方が手術室へ入ることはできません。

## 4. 硬膜外鎮痛実施中の過ごし方

- ・ 硬膜外鎮痛中は禁食とし、水分のみの摂取とさせていただきます。
- ・ 痛みの感じ方や子宮口の開き方をみながら、麻酔使用・増量のタイミングを決めていきます。
- ・ 定期的に血圧測定・麻酔範囲のチェック・内診を行います。
- ・ 分娩までベッド上で過ごしていただくため、2～3時間ごとに導尿を行います。
- ・ ベッド上ではやや背もたれを上げていただきますが、ご自由にお過ごしいただけます。
- ・ ご主人の立ち合いも可能です。

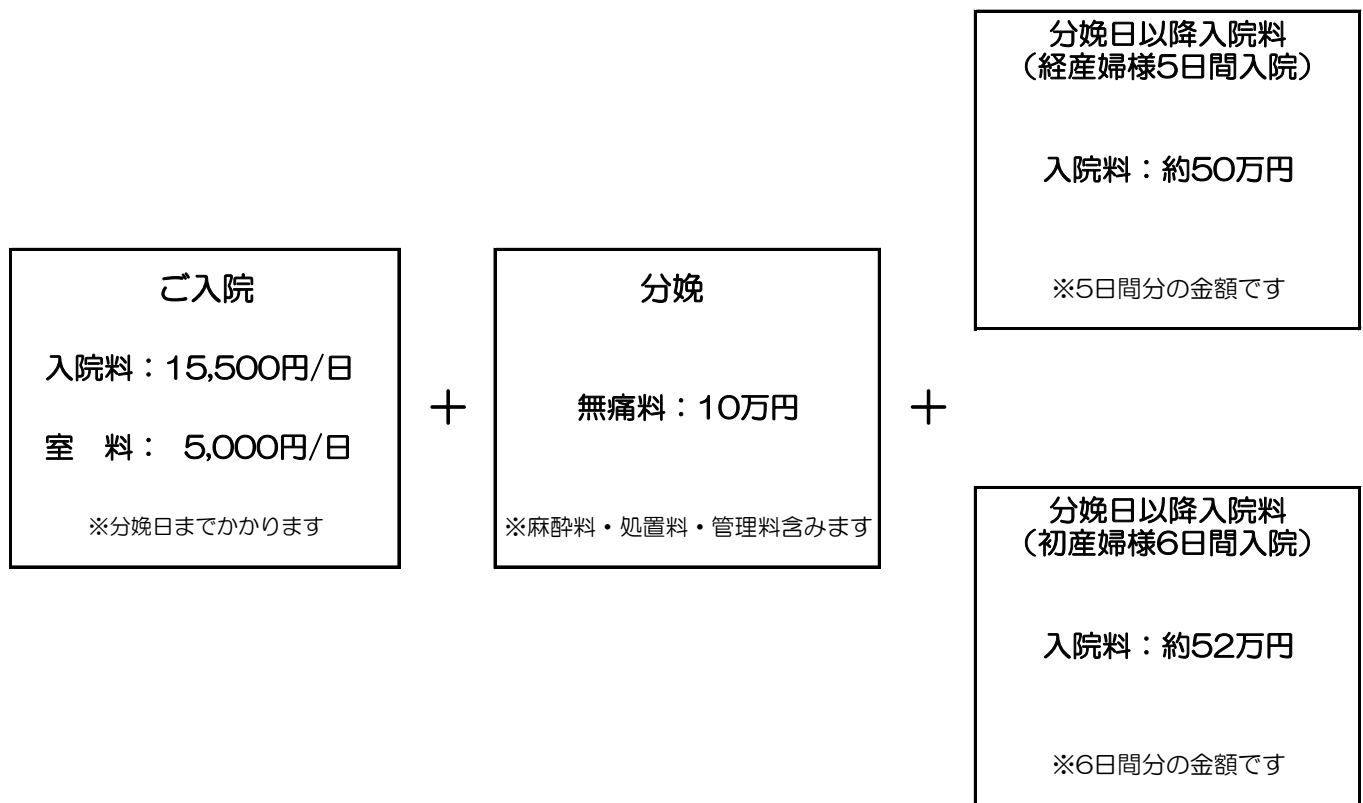
## 5. 硬膜外麻酔の効果が弱い場合

- ・ 経静脈的自己調節鎮痛法で対応することもあります。

## IV. 無痛分娩受付からご入院までの流れ

32週まで	受付          仮予約	32週までに無痛分娩を希望していることを申し出てください。 以下の方はお受けできません。 ・初めてのお産の方 ・異常分娩の既往がある方 ・血液疾患(出血傾向)の方 ・脊髄神経疾患の方 ・感染症の方 ・局所麻酔薬にアレルギーがある方 等 予定日が決定した方は仮予約を行います。
32週	意思確認	無痛分娩担当医師(川口、角田、山代、松野)による診察を受けていただきます。  再度、無痛分娩の意思確認を行います。
36週	検査	血液検査を行います。
37週以降	診察     入院予約 入院申込	無痛分娩担当医師(川口、角田、山代、松野)による診察を受けていただきます。  ・子宮口の状態を内診で確認します。 ・血液検査の結果を確認します。 診察の結果、無痛分娩が可能と判断した場合は、入院日を決定します。 ・毎週木曜日2名枠 計画無痛分娩の同意書をお渡しします。
39週	入院	入院時、計画無痛分娩の同意書を提出していただきます。

## V. 料金



経過・症状により上記以外に費用が掛かる場合があります。

